

2025. 6/13 高知新聞

安くなるお米、その味は？

小笠原 隆政 70 学習塾経営(高知市棧橋通)

米価がじわじわと高騰していたこの数カ月、ついに我慢できなくなつて、この投稿欄でこの問題をとり上げたいと思つていたら、案の定というべきか、同じような不満を抱えていた人は多かつたらしい。

タイミングよく(あるいは悪く)農水大臣がうっかり発言をし、新たに就任した大臣は「ここが見せ場」とばかりに、備蓄米の放出に踏み切つた。その結果、5^ポで5千円以上していた米が、何と2160円で安い。これは確かに、財布にはありがたいが、

思わずこうも考えてしまう。「その米、おいしいのだろうか?」例えば牛肉で、今まで100^ポ500円の霜降りしか食べない私たちが、100^ポ200円の、さも冷凍焼けた肉を進んで買うだろうか? おそらく多くの人が一瞬、躊躇すると思う。

学生時代、学食のご飯がいしくなかった理由を先輩に尋ねたら「あれ、古古米だよ」と言われたことを思い出す。数年どころか、かなり前に収穫された備蓄用の米だった。

それでもおなかを満たせたけれど、食べるたびに「うーん」と思ったのも事実だ。わが家では、今白米に雑穀とち麦を交ぜて食べている。だから多少高くても、健康のためと納得しているし、麦のおかげでコストもやや抑えられている。

でも、今回の安い備蓄米に、同じように雑穀を交ぜたら、たぶんかなりおいしくないだろう、そんな気がしてならない。

確かに安さは正義であるが、日本人にとってお米の「おいしさ」はそれ以上の価値があるのである。

はやなせたかし
心に響いた言葉
ます。

かけがえのない命

中平 彰勅 71 会計年度任用職員

(高知市比島町)

4月1日付本紙に掲載された「高知市プール事故 第三者検証報告書」を読み、改めて松本鳳汰さんご遺族さまに謹んで哀悼の意を表します。

事故直後より、プール事故に関する本紙の記事を切り抜き何度も読み返してきました。読むたびに鳳汰さんの命を救えなかった事実が明らかになり、悲しみが胸が押しつぶされそうになりました。

事故後、私は本紙取材班に手紙を書きました。その中で、私は小学生の頃、身長が

低く、水泳が大の苦手だったこと、夏の体育の授業に苦痛を抱いたことを記しました。得意な人には分かり得ない、首元までくる水深の怖さにおびえ、それをかばうかのようにビヨンビヨンと水底を蹴つてはしのいでいた、苦しくつらかった当時を思い起こしながら、報告書の文面を一字一句見逃さずに読みました。

教師になつてからは水泳が得意な人より、苦手な人を目を向けるように心がけました。度々プールサイドに子どもたちを上げ、人数や顔色を確認し、その様子にとても敏感になつていたことを思い出しました。

管理職になつて水泳の補助を頼まれた時は、溺れそうにしている子どもや沈んでいる子どもがいないか、と常に神経を使いながら、何度も水中に潜つて確かめていました。

もうすぐ水泳の授業の季節です。安心・安全な状況を最優先にした、かけがえのない子どもたちの命に寄り添い、そして守る取り組みが始まります。

雨の研修旅行

浜田 和美 77 (南国市廿枝)

先日生涯大学の研修旅行で総勢81名、バス2台で小雨の中、淡路島へ行ってきました。

車中では日頃の授業と違い、話の花が満開状態。最初の見学地は「あわじグリーン館」。傘をさしてどのくらい歩いたか、入り口の遠かったこと。温室の中では世界の植物を見学、形に驚き、花を楽しみ香りに癒やされてのひとときを過ごしました。

バスは進み、お待ちかねの屋敷は淡路牛のすき焼きに舌鼓、満足。無料のタマネギスープを飲み、少々の土産を求め、一路「あわじ花さじき」へと。ところが雨風ともに強くなり、濃霧のため下車をあきらめ「北淡震災記念公園」に。野鳥断層の見学、マグニチュード7の体験。地震の恐怖、防災の知識の必要性を

再確認、学習しました。

帰途のバスにてそれぞれ感想を聞くと、雨が残念、屋敷がおいしかった、地震は怖いねえーがベスト3。四国山地を越すと予想通り土砂降りの中、一同無事に帰高。長い一日を終えました。

翌朝目覚めると、青空が広がりが朝日がまばゆい。なんぼいうたち、きのうの雨はあんまり!